

神奈川県から篠ノ井有旅に夫婦で移住し、8年が過ぎました。長野県に移住させてもらったのは、上田市に帰省する幼馴染に付いてきて、何度も何度も来るうちに、自然が豊かで気候が良く、時間の流れや長野の方の穏やかさ、お花が鮮やかで野菜が美味しくて……言ったらキリがないほど感動し、遊びに来るだけでなく生活したいと思ったからです。

信里は、北アルプスが見えたり自然を感じながらもご近所さんが近い住宅地なので安心感がありました。住み始めてすぐに、お裾分けして頂いたり、沢山声をかけて頂き、すごく有難かったです。

家の周りを探ると山菜があっでご近所さんに収穫させて頂いたり、山の先生にキノコを教わったり、季節を感じる瞬間がいっぱいあって、豊かな暮らしだなあ〜と感じています。

古家のリノベーションも素人ながらに夢中でやりました。囲炉裏を作ってお鍋をしたりして楽しんでいます。お互いの両親共に神奈川県出身の為、両親をはじめ兄弟・甥っ子姪っ子も『田舎ができて嬉しい。別荘代わりにしよう。』と喜んでくれています。信里の地にご縁があったことを、もっともっと楽しみたいと思います。



多くの出逢いは一生の思い出  
信里食育体験民泊受け入れの会 会長 深田好文

「しなの里山民泊の会」は2012年の設立から12年目を迎えましたが、本年度をもって解散することとなりました。設立時には大変ご苦労されたと聞いております。関わって下さいました皆様には心から感謝申し上げます。受け入れをして下さり、民泊の会を支えてくださった会員の皆様、そして子どもたちに声を掛けて下さった地域の皆様にも感謝申し上げます。

10年余の歳月の中で会員の方それぞれに状況の変化が来したこと、又、コロナ禍で受け入れを休止したこともあり、会員の減少が加速してきたことも解散の要因であったと思います。

しかしながら、民泊で多くの子どもたちと出逢ったことはもとより、信里の皆さまとの出逢いは本当に宝物であったと感じています。この先も受け入れの打診はまだまだあるとのこと、微力ながら個人として協力させていただきたいと考えています。

最後に民泊の良い思い出が時折茶飲み話の話題になれば幸いと存じます。



信里地域委員会からのお知らせ

11月10日に、令和6年1月から着任予定の地域おこし協力隊が居住する家の片付けを手伝いました。役員や有志にご協力いただきスムーズに片付けることができました。新たな地域おこし協力隊員は正式に着任しましたら広報などでご紹介する予定です。住民の皆様のご支援、ご協力をお願い致します。



信里地域委員会公式WEBサイト

信里地域委員会の各種情報や資料、信里だより、空き家情報など様々な情報を発信しています。

<https://nobusato.net/>



スマートフォン・タブレットからもご覧いただけます。



信里を知ろう！  
思い出にのこるイベント

初めての「信里マラソン」が開催されました！ 信里小学校



【よ〜い スタート！！】

有旅大池を外周するコースで、低学年（1年～3年）は、1周（約1キロ）を、高学年は2周（約2キロ）をそれぞれの目標タイムを目指して走ります。

さあ！スタートOK！

校長先生が手にしたスターターの合図で、まず低学年が一斉にスタートしました。スタート地点では、保護者や大会ボランティアの方が熱い声援を送っていました。カメラで子供の走る姿を撮影する保護者も多く見られました。

2023年10月6日（金）に、澄み渡る秋空の下、信里小学校で初めての行事である「信里マラソン」が、全校生徒31名全員参加で、開催されました。

篠井神社で行われた「はじめの会」で、校長先生は「自身の目安を決めてそれを目標に走り切ってほしい」と児童達を激励しました。



【篠井神社で準備体操】



【みんなで応援】

低学年の児童がすべてゴールした後、高学年がスタートしました。低学年も高学年も、自分の目標タイムを達成するために、最後まで諦めず、力を振り絞って走り切りました。ゴールした後、児童の中から肩で息をしながら「タイムが短くなった」等の声が聞かれました。マラソン大会では、児童一人一人が、走り切ったという達成感や、思うように走れなかったという思い、それぞれの感想があったと思いますが、マラソンを通じて大きな学びがあったことと思います。こうして、初めて開催された「信里マラソン」は、児童の頑張りと、先生、大会ボランティア、保護者等の支えで無事に終了しました。

令和5年度 信里医療懇談会

11月18日（土）午後3時より合同庁舎2階で行われました。内科滝沢先生、歯科島田先生、看護師山口さん、事務の徳武さん、市からは医療連携推進課の小林課長と向補佐にご出席していただきました。現状の説明があり、昨年と同じ状況であるとの事です。参加者より「廃止になるのでは」と不安の声もありましたが、市からは決して良い状況ではないが深く推察し、色々考えて行きたいとのことでした。

島田先生より「年に一度のこの会議で住民の方々は本音が言えていないのではないのか。診療所の活用方法を考えるような会議があると良いと思う」と提案がありました。私達地域住民がもっと真剣に考えなくてはいけないと感じました。



## 信里フェスティバル2023開かれる

令和5年10月29日（日）快晴の下、信里小学校体育館で信里フェスティバルが催されました。当日は300名近くの観客が訪れ大盛況でした。

### ・長野吉田高校書道部による書道パフォーマンス

多くの皆さんが間近で見たのは初めてだったのではないのでしょうか。部員9名の皆様による書道パフォーマンス。部長の大原さんによると、信里らしい文章とはなんだろう、大文字の配置や文章、背景の絵、山とりんごをどのように取り入れたらいいのだろうか、随分考えたそうです。出来上がった作品は校歌の一部を取り入れて信里の特色を活かしたみごとな作品に仕上がりました。観客の皆さんもキラキラした目で目の前の作品の出来栄に感激していました。



### ・信里子どもプラザのダンス発表

ダンス講師の鈴木結香先生の熱心なご指導により、少人数ながらもステージいっぱい踊る子ども達のキラのあるダンスには元気をもらいました。最後のマツケンサンバでは手作りグッズが配られ笑顔の子ども達と一緒に会場全体がサンバのリズムで盛り上がりました。子ども達 光ってましたよ！



### ・(株) 酒井商會代表取締役社長 酒井志郎さんによる講演会

“あいさつはなぜ大切か”をテーマに講演いただきました。挨拶をすることにより心を豊かにしてくれ、また気持ちを高めることにより自然と笑顔になり、人生を豊かにしてくれる出発点となると教えていただきました。



### ・さくらクラブ

身体のリラックス体操をしたり、また、ハンドベルもとても綺麗な音色を伝えてくれて心が癒されました。



体育館内の各ブースには、小山利枝子さんの絵画、手作りの作品、ぼんすけの育成状況の報告、また、菊の花などいろいろ目を見張るような作品が数多く展示されていました。

他に、「食の交流ブース」と称し、キッチンカーが2台出店され、長い行列を作り、提供が間に合わないほどの大盛況でした。

また、めずらしい「ぼたん汁」(猪汁)の無料配布もあり、温かい汁もので大勢が体を温めていました。このイノシシ肉は、元「地域おこし協力隊」の木村智佳子さんに、信里地区内で捕獲、解体した肉をふるまっていたいただきました。



## 小山清茂記念展示室開設 第6回メモリアルコンサート

同日の午後には、小山清茂記念展示室第6回コンサートが開かれました。小山清茂記念信里混声合唱団の皆さんは、清茂先生の難しい曲をみごとに歌いこなし、豊かな表現力で日頃の練習の成果を発揮されていました。会場には、清茂先生作の各地の校歌の展示もあり偉大な功績を見ることができました。



ゲストのソプラノ歌手の山口嘉美さんの体育館に響き渡る心洗われるような歌声にどんどん引き込まれていきました。信里小学校5、6年児童による校歌の発表のときに、バイオリニストの牧美花さんも参加され、いつもの校歌とは違う雰囲気味わうことが出来ました。牧さんの身体全体を使う演奏や、まさかのステージを降りての観客席全体を回る演奏は、目の前で聞くことが出来、その音色に最後まで魅了されました。



## 青池保育園 運動会

9月30日（土）秋晴れの中、青池保育園運動会が開催されました。当日は年長組2名の開催宣言後に、ラジオ体操を行い園児たちの競技がはじまりました。最初の競技は全園児による「かけっこ」です。3歳未満児によるかけっこは、「よちよち歩き」でしたが皆一生懸命に走っていました。来園者からは大きな声援が送られていました。



園児が祖父母や父母と協力しながらダンスを行う競技では、とても可愛らしい表現をしていました。先生方のご苦勞が感じられました。

また、紅組と白組に分かれて「玉入れ」も行われました。どちらのチームも精一杯、籠に向けて玉を投げる中、一緒に玉入れに参加している祖父母や父母に園児が玉を渡して投げてもらうといった姿もみられました。パラバルーンも行われました。パラバルーンとは、色の付いた大きな丸い布を園児で持って動かしたり、形を作ったりするものです。



最後の競技「信里の絆」では、青池保育園を卒園した小学生と在園児がかけっこで競い合いました。卒園児の小学生達も久しぶりの青池保育園の運動会を楽しんでいたようでした。



## お芋がとれたよ！ 大きいね！

### 青池保育園

10月5日（木）青池保育園の畑でさつま芋掘りが行われました。春に園児たちの手で植えた苗が成長し大きく実りました。お天気はあいにくの小雨混じりの日でしたが、それに負けないほど子ども達の歓声が大きく響き渡っていました。「先生、僕のこんなに大きいわよ」「私のも！」大きな子も小さな子も頑張ってお芋掘りをしました。このお芋は後日、園児と小学生とで「焼き芋会」を開き、おいしくいただきました。



有旅窯 丸山 正行

「本格的に山で薪を焚き、焼き上げたい」そんな願いを持って、あちこち探し出会えたのが、ここ有旅犬石であった。穴窯を築くのちょうどよい傾斜で、東側から風が吹き上げ、薪が沢山置ける場所。菅平や志賀の山々が眺められる、すばらしい景観の地でもあった。

地主さん方々から快くご了解をいただき、窯場作りが始まったのは四十二年程前のことであった。焼きもの仲間が四人ほど集まり、あちこちの工場などから古レンガや割れた棚板、サヤなどいただき、約一年ほどかけて長さ4～5mほどの穴窯が出来上がった。五日間ほど焚くので、泊まる小屋も古材を使い四畳半ほどの部屋を皆で建てた。いよいよ待望の新窯焚きである。もくもくと煙が上がり、三日目くらいになると煙突から炎が吹き出てきた。一週間ほど後に、いよいよ窯出しとなった。次々と赤味を帯びた、オレンジ色の肌の壺や花入れなど出てき歓声が上がった。この窯を十年ほど使い、もっと多く入る窯ということで、本職さんに頼み二号窯が築き上がった。愛好者がだんだん多くなり、陶芸教室を始めたのは二十二年前であった。ここまで焼きものを続けられたのも、地主さんはじめ地域の方々の温かなご理解ご支援があったからこそと、感謝しております。また家族の大きな支えがあったことも忘れることはできない。

この窯場が末永く続くことを願っております。



のんびり工房 畔上 清司

私は窯道楽です。全部私の手作りで、今の窯は4基目になります。焼いては壊し、又作っては壊し、良いものが出るまで作ると思っています。始めてから今年で30年になります。78歳になり、体力は続くか分かりませんが、気持ちだけは先走ります。

焼き物には「一焼き、二土、三細工」という言葉がありますが、焼きが1番難しい。天候にもよるし、湿気や燃料(薪)も関係する。ちょっと人間の力の及ばない微妙な動きがある。私でも期待した偶然をとらえるしか仕方がないんです。昔、大きな桐の木がそばにある私の窯が良く焼けたんだ。その木に風が当たると窯にスーッと風が入るんだ。当時はその木のおかげと知らんで、窯焼き名人のつもりで得意になっておった。それが台風で木が折れたら、もう出来なくなってしまったんだ。ハハハ

それから蛍光灯だとその下で見るように作らんと成功せん。だが、蛍光灯の下で見る色は自然光線の下で見るとみられたもんじゃないんだ。

そもそも私は陶芸教室に3年通って陶芸がすきになったんだ。始めは土をこねて半年間は何も作らなかった。やっと半年程して御飯茶碗と茶碗を作り始めた。妻と俺と、息子、嫁、孫の分と12個くらいつくってみたよ。

それから面白くなってきて、3年目には陶芸教室の窯を借りて俺の作品を一窯で焼いてみたんだ。うまくいったよ。

当時は灯油窯だったが、ある日知人に薪で焼いた作品をみせてもらった。

「アッ！これだ！」薪窯で焼いてみたいと思った。1年をかけて備前、信楽、土岐、の窯元を訪ね窯の寸法、薪の焚き方等教えてもらい45歳の時、篠ノ井有旅犬石に知人からいい土地があると聞いた。そこは昔、有旅の丘ポーチという施設の跡で陶芸教室があり、電気釜で焼いていたそう。借りたい旨を地主さんに伝え快く応じてくれた。敷地は1500坪くらいあり周囲には松、くぬぎ、ならの雑木林があり、長野市街が一望できる素晴らしい場所だ。地主さんには心から感謝しています。

工房を作ってから様々な音楽演奏家にご出演頂き、コンサートもひらきました。またこの次もやりましょうという事で、出演者募集中です。今年あたり、開催できればいいなおもっています。



## 犬石地区で活動されている陶芸家の方々

### 陶芸の魅力について

#### 煌藍窯(おうあいがま) 小池智久

数年前にご縁があり、以前よりある穴窯を引き継ぎました。私自身は、関西の芸術分野の大学で陶芸を専攻し、茶道具や器、オブジェといった立体造形作品の制作をしています。普段は市街地にある工房で電気窯や灯油窯で作品を制作しておりますが、年に一回から二回ほど犬石地区の窯で赤松の薪を燃料に五日間ほどかけて、焼き締め、志野、粉引と呼ばれる作品などを焼かせていただいております。

絵画や彫刻、ガラス工芸や漆工芸など、世の中には様々な美術や工芸の分野がありますが、制作の工程の中で作り手の目と手を完全に離れるものは陶芸以外無いと思っています。これは師の言葉でもあります。「陶芸は焼物」と呼ばれるように焼くということが作品良し悪しを決める大変重要な最終工程になります。しかし、窯の扉を閉めて火を点けてしまえば、焼き上がるまで作品を見ることも触ることもできず、あくまで想像の範囲で焼き進めていくしかありません。もちろん経験や技術によって操作できる部分はありますが、焼き上がりの結果の全てを炎に委ねるわけです。当然、全ての作品が思い通りに焼き上がることはなく、むしろ失敗した作品の方が多い結果になることもあります。そんな中、ごく稀に、想像の結果を上回る作品に出合えることがあります。99個の駄作の中にわずか1個の、その瞬間の気持ちの抑揚が陶芸の魅力のひとつだと思っています。

### 陶芸をもっと身近に

#### 高津屋窯 宇都宮 良幸

本窯は平成21年に築きました。造るに当たって、地元のご理解がなければいけないと思い、事前に地元犬石区の区長さんをお願いし、区民の皆様にご理解頂きました。窯を焚く時は黒煙発生となりますので、風向きによってご迷惑になる可能性があるためです。

レンガ約八千個を使い、瀬戸の職人さんによって造りました。以後年二回のペースで焚いております。

さて、窯名ですが「有旅 桜桃苑 高津屋窯」としました。大字有旅であること、字高津屋であること、この場所にサクランボ(桜桃)があったことをふまえ、少しでも地元に関わればとの思いからでした。

私は、陶芸はもっと身近なものであるべきと思っています。ですから陶芸と言わず「やきもの」と言っています。元々趣味で始めたやきものも四十五年を迎えようとしています。もう少し頑張ろうかと思っている今日この頃です。

物をつくる楽しさは上手下手ではありません。作ったものはあなただけのものです。あなたの気持ちが入ったものです。それを火の力で焼いたものが作品です。

やきものをとおして多くの人が入り出てくれて少しでも地元のにぎわいにつながっていけたら幸いです。お越しをお待ちしています。

